平成16年 台風18号による被害復旧森林の生育状況について

NPO法人 支笏湖復興の森づくりの会　理　事　石田　守雄
一般財団法人 セブン-イレブン記念財団　事務局　小野　弘人
石狩森林管理署　小林　大樹

1　はじめに

平成16年９月、北海道地方を襲った台風18号により支笏湖周辺の国有林は７千haにわたり大きな被害を受けました。この森林の復興にあたり市民・企業・行政による「協働の森づくり」の取組として、セブン-イレブンみどりの基金により108haの大地に10万本の植樹が行われました。

この取組は、NPO法人支笏湖復興の森づくりの会が引き継いで植栽箇所の保育作業等を行い、被害を受けた森林は確実によみがえりつつあります。

平成18年度、市民参加型の協働の森づくりなどについて第一報を報告してから６年が経過したことから、その後の取組や植栽木の成長状況、今後の課題についてとりまとめたので第二報として報告します。

写真１　被害直後の森林

2　復興の森づくりの事業

大型機械による地拵を行った被害森林約108haを100区画に分け、平成18・19年に「森の育ての親」によりアカエゾマツやトドマツなどの苗木を１千本／ha植栽しました。「森の育て親」とは、１区画を受け持ってくれる団体を登録し、その後の下刈や補植などの保育作業を受け持ってもらうもので、森づくりに関わるNPOや民間ボランティア団体のほか、各種学校や民間企業など幅広い職種から129団体が登録しています。

森づくり活動以外にも、多くの方々が森林に入り自然にふれあえるよう野草観察会や山菜試食会等を開催するとともに、植栽木の生育調査を毎年行い自分たちの植えた樹木の生長を楽しみにしています。

3　生育状況

①　植栽箇所

植栽翌年の活着率は、約98％で、部分的に補植を実施しました。また、樹高成長は林班毎にばらつきはあるものの、年間生長量は毎年 増加しており、成長のよいアカエゾマツでは150cmを超えているものもあります。

写真２　生育調査の様子

②　天然更新地

平成23年の稚樹の発生状況は、シラカバが3,877本/haと最も多く、次いでヤチダモ663本/ha、ハンノキが644本/haとなっていますが、ヤチダモは平成19年の1,462本/haから毎年減少しています。

4　今後の課題

支笏湖復興の森づくりの取組は植栽から７年を迎え、一部では下刈を終了してもよい状況になってきていることから、今後の活動について団体に対しアンケート調査を実施しました。多くの団体が「継続して森づくり活動に参加したい」「活動は不明だがフィールドへは行ってみたい」と回答し、継続した活動が求められています。

今後、天然更新地の更新状況を見ながら必要な保育作業を行い、市民や企業、行政機関が連携した協働の森づくりによる「よみがえった森林」としてモデル林となるよう取り組みを進めるとともに、継続した活動として「周囲の人工林での間伐などの体験林業」「生育調査等を通じた森林とのふれあい」「森林の働きと再生等の森林環境教育」などを実施して行きたいと考えています。